

加工・業務用タマネギ導入により 経営の安定を目指す経営体の育成

県西農林事務所坂東地域農業改良普及センター

古河市、坂東市、境町、五霞町では、JA 茨城むつみ玉葱研究会の生産者 17 名が加工・業務用タマネギの契約栽培に取り組んでいます。普及センターでは、安定生産のため関係機関と連携した栽培技術指導や個別技術の調査研究、省力機械の普及を推進してきました。

また、規模拡大に意欲的な農家を導入モデルに位置付け、重点的に技術・経営指導した結果、野菜経営体だけでなく普通作経営体にも取組が広がり、作付 1 ha 規模の経営体が 3 名育成されました。

関係機関と連携した技術支援

坂東地域でのタマネギ栽培は平成 29 年から始まりましたが、栽培経験が浅く育苗管理の失敗や、土壌化学性の不良、雑草管理に起因する低収量が課題となっていました。

普及センターでは、収量向上のため、関係機関と連携して栽培講習会、全戸土壌診断に基づく施肥指導、ほ場巡回、現地検討会により綿密な技術指導を行ってきました（写真 1）。また、新規栽培者の重点指導を実施しました。



写真 1 茎葉処理機の現地検討会



写真 2 マルチ導入により除草労力を削減

マルチによる安定生産技術の実証

マルチ導入試験により除草労力が削減できることや肥大促進効果があることを実証し、生産者に情報提供した結果、マルチ導入は作付面積の 50% を占めるようになりました（写真 2）。得られた知見は「坂東地域タマネギ栽培マニュアル」に取りまとめ、生産者に提供しました。

こうした取組により、目標収量である 6 t/10a 以上を達成した生産者の割合は、平成 30 年当初の 22% から令和 2 年産は 65% と大幅に増加しました。

機械の共同利用と規模拡大

全自動移植機、収穫機、ピッカー等の共同利用により省力化・規模拡大が進んでおり、野菜経営体だけでなく普通作経営体にも取組が広がっています（写真 3）。

普及センターでは、規模拡大に意欲的な農家を選定し、技術・経営指導により導入モデルとなるよう育成を進めた結果、タマネギを 1 ha 規模で作付けし、経営の 1 部門と位置づける経営体が 3 名育成されました。



写真 3 全自動移植機による定植作業